

## 令和7年度教育事業

### 全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」

### 「オリエンテーション合宿 in 能登チャレンジ」

#### 全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」とは

国立青少年教育振興機構が令和2年度に新設した「全国高校生体験活動顕彰制度『地域探究プログラム』」は、高校生の体験活動を通じた成長を目指し、改訂された学習指導要領のキーワードである「探究」の手法を用いて学習を深める制度である。取組みを段階的に分けており、ステップⅠ「地域探究トライアル」では「探究」の学びと実践を、そしてステップⅡ「地域探究アワード」では意欲の高い高校生向けに実践活動の顕彰を行う。

#### 1 趣 旨

高校生が地域づくりや地域の課題解決などに関する体験活動を通して、問題発見・解決能力を身に付け、新たな価値を創造する人材育成に資するとともに、それぞれの実践活動の成果や自身の成長を適切に評価し、青少年の体験活動に関わる社会的な認知を高める。



#### 2 日 程 等

(1) 期 日 令和7年7月19日(土)～7月21日(月祝) 2泊3日

(2) 参加者	石川県立大聖寺高等学校	第3学年	2名				
	石川県立鶴来高等学校	第2学年	2名				
	金沢高等学校	第3学年	1名	第1学年	1名		
	金沢大学人間社会学域						
	学校教育学類附属高等学校	第2学年	1名	第1学年	3名	合計	10名

#### (3) 講師及び研修内容

##### ① 講 師

[講話「みずからで守り繋ぐ私たちの地域づくりの実践  
あなたが考える地域づくり 地域の課題とは」]  
羽咋市邑知公民館神子原分館 館長 平井 正信 氏

[フィールドワーク①・②]

有機農家 屋後 浩幸 氏  
元菅池町 町会長 中山 勇晴 氏



[講義・演習②]

富山大学経済学部1年 秋葉 詩音 氏

[ガイダンス、講義・演習①、③④、発表①②]

魚川 友康 (国立能登青少年交流の家 企画指導専門職)

須田 寛子 (国立能登青少年交流の家 企画指導専門職)



② 研修内容（カリキュラム）

分野	No.	科目名	月/日	時間	探究のプロセス	主な活動内容	活動場所
導入	1	ガイダンス①-1	7/19	9:00-9:50	-	地域探究プログラムの内容・スケジュール等の確認。	交流の家第8研修室
		ガイダンス①-2		10:00-10:50	-	各々の探究の目的、期待する自己の変容の確認と共有。	交流の家第8研修室
	2	講話 「地域づくりの実践」	7/19	11:00-11:50	課題発見	「地域づくりの実践」の講話を聴き、今後の活動に向けて意欲を高める。	羽咋市 邑知公民館 神子原分館
		フィールドワーク①-1 「地域の魅力発見」		12:00-14:50		FWを通して、地域づくりに関する取組についての活動を体験し、その魅力を発見する。 (仲間づくり・生きがいづくり)	
	3	講義・演習① 「地域理解」	7/19	15:00-16:50	課題発見	情報マップ作りを通して、FW①の調査内容の全体像を把握する。	交流の家第8研修室
	探究のプロセスの実践	4	講義・演習②-1 「課題解決の基礎」	7/19	17:00-17:50	課題の設定	FWを通して問題点を明らかにし、解決策や質問を考える。
5		講義・演習②-2 「課題解決の基礎」	7/19	19:00-20:50	課題の設定	対話を通して問題点を明らかにし、解決策や質問を考える。	交流の家第8研修室
6		フィールドワーク② 「地域課題の探究」	7/20	9:00-13:50	情報の収集	講師との意見交換や別の取組の調査を通して、より有効な解決策を考える。	羽咋市 邑知公民館 神子原分館
7		講義・演習③ 「地域課題の探究」	7/20	14:00-17:50	整理・分析 まとめ	調査内容や問題点の解決策をポスターに整理し、まとめる。	交流の家第8研修室
8		発表①	7/20	19:00-20:50	表現	作成したポスターを用いて、ポスターセッションを行う。	交流の家第8研修室
地域課題の取組	9	講義・演習④-1, 2 「行動計画の基礎」	7/21	9:00-12:50 昼食含む	課題の設定	実践活動での行動計画を作成する。	交流の家第8研修室
	10	発表②	7/21	13:00-13:50	表現	今後の実践活動の行動計画を発表する。	交流の家第8研修室
	11	実践活動のためのガイダンス	7/21	14:00-14:50	-	実践活動上の安全管理や社会のルール・マナーを理解する。	交流の家第8研修室

③ フィールドワーク概要

有機農家 屋後 浩幸 氏  
元菅池町 町会長 中山 勇晴 氏

中間山地にある菅池町を訪れ、農業の現状や課題、地域の魅力、移住者支援や町民との関係づくりについて学ぶ。



トークセッションの様子

### 3 成果と課題

本事業に参加した10名の生徒から、今回のオリエンテーション合宿での学びについての振り返りをしてもらった。

#### (1) フィールドワークでの学びについて（生徒の感想・記述より抜粋）

- ・町の人の話を聞くことがいかに重要か分かった。もっと農業について深く知りたくなった。
- ・実際に農地に行ってみることで視野が広がった。農業だけでなく、生産や経営についての話が面白かった。



「有機野菜」と「のとしし」を使ったカレー作り

#### (2) 生徒のオリエンテーション合宿の学びにおける成果と課題 （生徒からの聞き取り）

##### ① 成果

- ・参加しなければ分からなかったことがたくさんあった。農家の方々の生の声を直接聞いたことで、現場のリアルな課題や思いを知ることができた。また、他校の生徒の多様な視点からの意見や質問にも触れ、自分の視野を広げることができた。
- ・初めてのプレゼンを通して、解決策を考える際にはメリット・デメリットの両面から整理すると分かりやすいこと、そして問題点を指摘するだけでなく、それをどう改善していくかまで考えることが大切だと学んだ。
- ・自分の将来を見つめ直すきっかけになり、一歩近づいたように感じた。屋後さんとのつながりができたので、これからも学びを深めていきたい。
- ・農業に関するさまざまな知識を得たことで、祖父母の畑仕事を手伝ってみようという気持ちになった。



フィールドワーク②の後

##### ② 課題

- ・フィールドワークでは農業体験のため屋外活動を行ったが、ちょうど梅雨明けと重なり、非常に暑い日となった。熱中症のリスクもあったため、今後は活動内容に応じて開催時期を検討する必要があると考えられる。
- ・フィールドワークの時間が限られていたため、収穫体験の時間が十分に確保できなかった。



発表・質疑応答

#### (3) 運営面における成果と課題

##### ① 成果

- ・募集時にチラシを工夫して作成し、農業への関心を引くよう配慮した結果、10名の参加者を得ることができた。
- ・昨年度の参加実績のある高校を訪問し、今年度の事業を説明した結果、2名の参加が得られた。
- ・テーマ設定が良かったのか、これまで参加実績のない高校の生徒も参加し、有意義な時間を過ごすことができた。
- ・参加前に高校生に「参加動機」をフォームで聞いたことで、参加者の思いや関心を講師と共有でき、講義やフィールドワークの内容を構成する材料にすることができた。
- ・1日目の講義やフィールドワーク①ではやや緊張感があったが、「夕べのつどい」やその後の交流活動を通じて一気に打ち解け、以降の講義・演習では活発に意見交換ができた。
- ・地域探究プログラム（公募型）の経験者である大学生をアドバイザーとして招いたことで、テーマ設定や探究の進め方、解決へのアプローチなど実践的なアドバイスを受けより深い学びにつながった。
- ・事業全体の満足度は100%で、「多様な見方・考え方に気づけた」「まとめ・表現する力が伸びた」との声が多く寄せられた。

##### ② 課題

- ・地域探究プログラムの計画・立案が年度途中からの着手となり、スケジュールがタイトになってしまった。その結果、関係者に負担をかける形となった。
- ・予算に限りがある中で、遠方から参加する生徒には交通費や食費の負担が大きく、参加料7,000円は高額と感じられた可能性がある。今後は参加料に見合ったプログラム構成を検討する必要がある。